事業報告（平成5年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/00000419

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

事業報告（平成５年度）

Ⅰ．展示関係

Ａ．収蔵品展一覧

１．芸術資料館陳列室

第１回　「春季展」
会　期　平成５年４月５日（月）～４月30日（金）
入場者　565人　　19日間

第２回　「新収蔵品展」
会　期　平成５年５月31日（月）～６月25日（金）
入場者　755人　　20日間

第３回　「更紗と錦」展
会　期　平成５年９月13日（月）～10月15日（金）
入場者　977人　　22日間

第４回　「秋季展」
会　期　平成５年11月８日（月）～12月３日（金）
入場者　2073人　　22日間

第５回　「卒業作品－衣装図案」展
会　期　平成６年１月17日（月）～２月10日（木）
入場者　629人　　19日間

◎総計　4999人（102日開室）

２．京都市四条ギャラリー

京都市四条ギャラリー（四条高倉）において、本館及び本学芸術教育振興協会が主催する収蔵品展を開催した。

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展
鳳凰堂板絵・道釈画－土佐派絵画資料展」
会　期　平成５年10月２日（土）～10月26日（火）
入場者　1472人　　22日間

B．収蔵品展展示概要

第１回　「春季展」
会　期　平成５年４月５日（月）～４月30日（金）
入場者　565人　　19日間

恒例となった「春季展」では、本館所蔵資料の中から、近年公開されていないものを中心に作品を選び展示している。今回の展示では、本館所蔵の日本や中国の漆工作品を選んだ。これらの作品の多くは本学の前身である美術工芸学校や絵画専門学校で、教材とするために収集されたもので、かって、実業界との関係を密にした教育が行われた時代の、積極的な参考品収集を物語る校歴資料となっている。新入学生に収蔵品の紹介ができればと考えて開催した展示で、内容的には見応えのあるものだが、学生の興味とかみ合わなかったのか、入室者は低調であった。

展 示 作 品

1．	神仙堆黒香合		中国・明時代
2．	屈輪堆朱香合		中国・明時代
3．	屈輪堆朱香合		中国・明時代
4．	菊堆朱香合		中国・明時代
5．	唐花唐草堆朱香合		中国・明時代
6．	面壁達磨鎌倉彫香合		江戸時代（寛政８年：1796）
7．	青海波塗香合	伝　青海勘七	江戸時代
8．	若狭塗香合	宗四郎	江戸時代
9．	波蒔絵久和良形香合		江戸時代
10．	大原女蒔絵切炭形香合	伝　不入	江戸時代
11．	琵琶蒔絵香合		江戸時代
12．	秋草蒔絵香合	（観松齋銘）	江戸時代
13．	亀甲紋散蒔絵香合		江戸時代
14．	蔦蒔絵香箱		江戸時代
15．	花車蒔絵香枕		江戸時代
16．	人物蒔絵阿古陀形火取		江戸時代
17．	桐唐草蒔絵焚殻入		桃山時代
18．	秋草文焚殻入		江戸時代
19．	蓬莱葵紋焚殻入		江戸時代
20．	唐草蒔絵煙草盆		江戸時代
21．	桐唐草蒔絵煙草盆		江戸時代
22．	黒赤漆糸巻煙草盆	（如小好）	江戸時代
23．	黒漆夜櫻棗	中村宗哲	江戸時代
24．	人物蒔絵印籠	塩見政誠	江戸時代
25．	松梅蒔絵文箱		江戸時代
26．	源氏蒔絵茶箱		江戸時代
27．	鷹狩人物存星小箱		江戸時代
28．	草花蒔絵文庫		江戸時代
29．	葵紋隅赤小箱		江戸時代
30．	鶴蒔絵螺鈿硯箱	永田友治	江戸時代
31．	鳥兜密陀絵硯箱	（城端製）	江戸時代
32．	桐鳳凰蒔絵鞍		江戸時代（寛文９年：1669）
33．	黒赤漆高杯		江戸時代（正保３年：1643）
34．	絵変蒔絵堤重		江戸時代
35．	片輪車千鳥蒔絵酒温器		江戸時代
36．	仙女唐子草花螺鈿重箱		中国・明時代

37. 高士談棋草花密陀絵重箱	(城端製)	江戸時代
38. 唐子螺鈿椀	(琉球製)	17世紀
39. 唐子螺鈿椀	(琉球製)	17世紀
40. 鶏頭蒔絵盃台	永田友治	江戸時代
41. 果樹堆朱食籠		中国・明時代
42. 蒟醤十角盛器		タイ・18世紀
43. 春馬蒔絵飾盆	平館嘉邦	昭和34年頃 (C. 1959)
44. 挿秧人物蒔絵盆		桃山時代
45. 高士談棋沈金盃盆		江戸時代
46. 桜閣人物箔絵面盆	(琉球製)	17世紀
47. 叭々鳥密陀絵盆		江戸時代
48. 蟹蒔絵硯蓋	永田友治	江戸時代
49. 芥子蒔絵硯蓋		江戸時代
50. 唐草家紋散蒔絵歯黒道具		江戸時代
51. 松桜葵紋蒔絵鏡台・鏡箱		江戸時代
52. 蓬萊蒔絵鏡箱		桃山時代
53. 家紋散蒔絵化粧道具		江戸時代
54. 塗標本		明治時代

第２回　「新収蔵品展」
会　期　平成５年５月31日（月）～６月25日（金）
入場者　755人　　20日間

恒例になった新収蔵品展示である。平成４年度に寄贈または購入により収蔵された作品のうち買上となった卒業作品を除き展示した。絵画と工芸と彫刻の分野の作品が並ぶことになったが、絵画のバラエティーもあって変化のある内容となった。移管となった明清絵画は展示の目玉となり、林司馬・後藤貞之助・奥村厚一ら本学関係者の粉本や画稿の寄贈及び購入は、本館の収集方針にそったものとして資料を一層充実させている。また本学を今年退官した教員である稲田尚之・冬木偉沙夫・真野岩夫の三者から記念寄贈を受けたことは幸いなことである。

展 示 作 品

1．	花鳥図		中国・明時代	軸、絹本着彩
2．	高岑	松柏図	中国・清時代	軸、絹本着彩
3．	河津光浚	醍醐寺五重塔心柱板絵		額、紙本着彩
4．	河津光浚	栄山寺八角堂内陣柱菩薩図		額、紙本着彩
5．	野崎一良	渺	1988　個展	ブロンズ
6．	藤平　伸	四角と菱形の模様のある壺	1980	
7．	真野岩夫	Opera	1988　個展	アクリル
8．	真野岩夫	立つ	1957　第９回京展紫賞	額、油彩
9．	真野岩夫	Nude	1956頃	額、紙・インク
10．	冬木偉沙夫	いざない	1991　第46回新匠工芸展	屏風（２曲１双）、漆・加飾
11．	冬木偉沙夫	菊蒔絵中次	1992　退官記念展	研出蒔絵
12．	稲田尚之	若松邸建築資料	1992	パネル（25面の内５面）、写真・図面
13．	林　司馬	林司馬絵画資料（11点の内）		
		仏像手足　（巻子）		紙本墨画
		仏像集　上（巻子）		紙本墨画
		仏像集　下（巻子）		紙本墨画一部淡彩
		金銅仏集（巻子）		紙本墨画一部淡彩
		仏画集　（巻子）		紙本淡彩
		面（15面の内４面）		紙本淡彩
14．	後藤貞之助	三国峠晩秋　画稿	1943（第６回文展）	紙・淡彩
15．	後藤貞之助	後藤貞之助絵画資料（13点の内）「山池」		
		鷹峯Ⅰ	1930	紙本淡彩
		北山・紅葉Ⅰ	1946	紙・水彩
		北山・紅葉Ⅱ	1946	紙・水彩
		薬師嶽	1949～52	紙・水彩
		池の山・杉	C.1951	紙・水彩
		前平	1957	紙・水彩
16．	奥村厚一	清光　画稿	1947（第３回日展）	額、紙・鉛筆・墨
17．	奥村厚一	奥村厚一絵画資料（33点の内）		
		日吉ヶ岡附近	1924	紙・水彩
		ハナレ碆臼碆附近	1946.3.25	紙・鉛筆・色鉛筆
		ぶなの林	1947	紙・鉛筆・色鉛筆
		築山ニテ武奈岳	1952.2.11	紙・鉛筆
		潮岬	1953.1.14	紙・鉛筆・色鉛筆
		海	1943	紙・鉛筆
		大江山鍋塚ヨリ千丈岳	1955.1.23	紙・鉛筆・色鉛筆
		サンモリッツ	1962	紙・鉛筆・色鉛筆

第３回　「更紗と錦」展

会　期　平成５年９月13日（月）～10月15日（金）
入場者　977人　　18日間

この展示では、本館が所蔵するアジアの染織資料を展示した。これらの資料は全て、本学の教員が海外に調査に出かけた際収集してきたもので、特に展示の大半を占める、ジャワ更紗のコレクションは京都市立美術大学時代の昭和42年（1967）の文部省の科学研究費によって美術大学に結成されたインドネシア美術総合調査隊の収集品である。染織作品だけに、保存の問題もあって展示回数も少なく、数年ぶりの展示である。かって大学がこうした調査などを行っていたことを学生が知る機会ともなり、資料の面白さも手伝って比較的多くの入室者を得た。

展 示 作 品

＜更紗＞

1．花鳥文更紗腰衣	インドネシア：ラスム
2．花鳥扇文更紗腰衣	インドネシア：ジャカルタ
3．草花文更紗腰衣	インドネシア：ジャカルタ
4．斜縞鳳凰蝶文更紗肩掛	インドネシア：バリ
5．龍花文更紗腰巻	インドネシア：チレボン
6．鶏唐草岩文更紗腰巻	インドネシア：チレボン
7．継布文更紗腰巻	インドネシア：チレボン
8．雨雲唐草文更紗腰巻	インドネシア：チレボン
9．鳳凰草花蝶文更紗腰巻	インドネシア：チレボン
10．動物樹木海洋文更紗腰巻	インドネシア：チレボン
11．文様見本更紗	インドネシア：ジョグジャカルタ
12．文様見本更紗	インドネシア：ジョグジャカルタ
13．斜縞幾何学文更紗腰巻	インドネシア：ジョグジャカルタ
14．鳳凰唐草文更紗腰巻	インドネシア：ペカロンガン
15．翼草花文更紗腰巻	インドネシア：ペカロンガン
16．斜縞幾何学文更紗腰巻	インドネシア：ジャカルタ
17．更紗制作道具（チャンチン）	インドネシア：ジャカルタ
18．更紗制作道具（チャップ）	インドネシア：ジャカルタ
19．白地花鳥文更紗卓布	イラン
20．白地花鳥文更紗卓布	イラン
21．白地花鳥文更紗卓布	イラン
22．更紗裂帖	17～19世紀

＜錦＞

23．白地重ペーズリー文カシミヤ毛織物卓布	インド：カシミール
24．白地重ペーズリー文カシミヤ毛織物卓布	インド：カシミール
25．白地重ペーズリー文カシミヤ毛織物卓布	インド：カシミール

第４回　「秋季展」
会　期　平成５年11月８日（月）～12月３日（金）
入場者　2073人　　22日間

恒例となった「秋季展」である。平成４年度に収蔵された奥村厚一・後藤貞之助の写生と画稿を中心に、上原卓・石崎光瑤の写生を加えて、４人の日本画家の風景写生の展示とした。資料には四者四様の世界が見られるが、その中でも奥村画稿は本画作品に勝るとも劣らない新鮮さを見せて魅力にあふれており、多くの鑑賞者の興味を惹くところであった。大学祭の会期を含んだため、多数の入室者をみた。

展 示 作 品

奥村厚一	山村　画稿	紙・鉛筆・墨	1325×2025㎜	1929	
	深秋の河原　画稿	紙・鉛筆・墨	1708×1562	1930	
	松陰雨日　画稿	紙・鉛筆・墨	1467×2045	1934	
	雨後ニ立ツ雲　画稿	紙・鉛筆・墨	1560×2287	1936	
	雪の音　画稿	紙・鉛筆・墨	1480×2205	1936	
	落葉の秋　画稿	紙・鉛筆・墨	1670×2498	1937	
	浄晨　画稿	紙・鉛筆・墨	1610×1900	1946	
	瀧（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・淡彩	553× 241	1925	
	彦根城跡（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・水彩	236× 560	1931	
	長蔵小屋ニテ（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	276× 180	1943	
	檜ノ突出（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	276× 180	1943	
	尾瀬沼沼山峠ニテ（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	265× 380	1943	
	尾瀬・平滑滝（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	360× 265	1943	
	滋野付近御牧ヶ原展望（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	252× 351	1946	
	浅間山終雪（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	252× 353	1946	
	牟岐附近１（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	241× 307	1949	
	牟岐附近２（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆	241× 307	1949	
	室戸岬（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	239× 307	1949	
	網干島（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	269× 362	1950	
	築山ニテ武奈岳（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆	259× 371	1952	
	大江山スキー場ヨリ大江山連峯（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	247× 312	1955	
	鬼ケ岳（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	247× 312	1955	
	アルタミラ附近（奥村厚一絵画資料）	紙・鉛筆・色鉛筆	296× 411	1962	
後藤貞之介	鷹峯Ⅱ（後藤貞之介絵画資料）	紙本淡彩	571× 880	1930	
	写生帖（後藤貞之介絵画資料）	紙・水彩	301× 225	1946	
	「嵯峨野」エスキースⅠ（後藤貞之介絵画資料）	紙・水彩	198× 151	1946	
	「嵯峨野」エスキースⅡ（後藤貞之介絵画資料）	紙・水彩	270× 198	1946	
	嵯峨野　画稿	紙・木炭	1810×1292	1946	
上原　卓	みどころが池にて（上原卓写生一括資料）	鉛筆・チョーク	393× 542	1966	
	淀（上原卓写生一括資料）	鉛筆・チョーク	393× 547	1970	
	竹林（上原卓写生一括資料）	鉛筆・チョーク	395× 545	1982	
	遠望金山寺（上原卓写生一括資料）	鉛筆・チョーク	395× 545	1983	
石崎光瑤	高野山（石崎光瑤写生一括資料）	鉛筆・水彩	264× 177		
	高野山（石崎光瑤写生一括資料）	鉛筆・水彩	285× 187		
	赤目　セタ川（石崎光瑤写生一括資料）	鉛筆	280× 182		
	虫　黒部　ナナカマド（石崎光瑤写生一括資料）	鉛筆	285× 187		
	日光　牡丹　鉄セン　ザクロ（石崎光瑤写生一括資料）	鉛筆	286× 187		

第５回　「卒業作品－衣装図案」展

会　期　平成６年１月17日（月）～２月10日（木）
入場者　629人　　19日間

毎年開催されるようになった卒業作品の展観として、美術工芸学校の図案科卒業作品を選んだ。今回は染織工芸の中心地である京都にふさわしく、様々な衣装図案を選んだ。本学の前身である美術工芸学校は、早くから京都の産業と深く関わっており、西陣を中心とする染織産業と深い繋がりを持っていた。展示される作品の制作された明治末から昭和初期にかけての時期は、産業の隆盛と産学共同の精神に支えられて、様式の面でも時代を象徴する特徴を見せている。学内鑑賞者にも好評を得たばかりか、外部からの来室者も数多く見られた。

展 示 作 品

奥村作次郎	婦人衣装図案	紙本着彩	明治27年(1894)	700×1065㎜
小川　純一	婦人礼服及頭飾図案	紙本着彩	明治37年(1904)	2300×1440
小谷　有朋	古歌十二月の意裾模様図案	紙本着彩	大正３年(1914)	705×5400
山田　恭三	謡曲十二ヶ月応用裾模様図案	紙本着彩	大正７年(1918)	573×4585
湯浅　源三	源氏物語の意婚礼衣装図案	紙本着彩	大正７年(1918)	1740×1545
早見　晴夫	裾模様図案	紙本着彩	大正11年(1922)	745×2615
赤瀬川兼一	片側帯地図案	紙本着彩	大正12年(1923)	520×2745
木村　吾一	着尺図案	紙本着彩	大正12年(1923)	320×3493
福永　俊吉	裾模様図案	紙本着彩	大正12年(1923)	940×1830
岸田宗三郎	三襲裾模様図案	紙本着彩	大正14年(1925)	840×1535
上野　政一	祝儀用織物女帯地図案	紙本着彩	大正15年(1926)	678×2065
山田彦次郎	裲襠図案	紙本着彩	昭和２年(1927)	2030×1185
田中　久義	帯地図案	紙本着彩	昭和３年(1928)	1530×　676
水上　邦彦	夜会服図案	紙本着彩	昭和３年(1928)	1190×1615
北井　庸三	夜会服図案	紙本着彩	昭和５年(1930)	1740×1413
新開　與作	織物広帯図案	麻布着彩	昭和９年(1934)	1810×1390
高橋　忠一	三襲裾模様図案	紙本着彩	昭和10年(1935)	1755×1755
武下　吉男	花鳥夜会服図案	紙本着彩	昭和12年(1937)	1625×1280

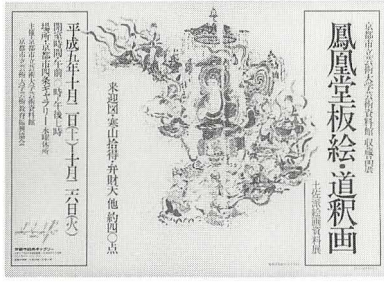
C．京都市四条ギャラリー展示

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展
鳳凰堂板絵・道釈画－土佐派絵画資料展」
会　期　平成５年10月２日（土）～10月26日（火）
会　場　京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）
入場者　1472人　　22日間

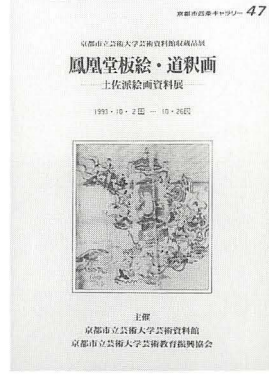
京都市四条ギャラリーにおいて本館収蔵品展を行った。主催は本館及び本学芸術教育振興協会である。また展示に際して、本館編・同振興協会発行の図録「土佐派絵画資料目録（四）鳳凰堂板絵・道釈画粉本」が発行された。目録の編集は本学教授榊原吉郎氏と本館学芸員で行い 116点の資料を掲載している。本展示の内容構成はこの目録編集作業から導かれたものである。

展示内容は本館の所蔵する土佐派絵画資料の中から平等院鳳凰堂の板絵を江戸後期に原寸大に模写したものと、寒山拾得図をはじめ、弁財天像や聖賢像など仏教や儒教に関わる模写・下絵類39点を展示した。これまで、一般に公開されていない資料だけに、会期中は美術愛好家ばかりでなく、美術の専門家の来場も少なくなかった。

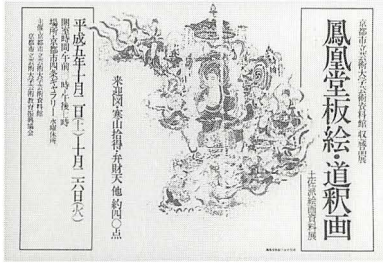
展覧会用に、ポスター（Ｂ３、２色刷）・はがき（２色刷）・パンフレット（Ｂ５判、４ページ）が印刷された。



ポスター



パンフレット



はがき

ごあいさつ

京都市立芸術大学は、1990年の創立110周年の記念事業を契機として、内外に広く開かれた大学をめざして、美術・音楽にわたる幅広い事業活動を続けてまいりました。本学の芸術資料館と芸術教育振興協会が主催します土佐派絵画資料の公開展示もそのひとつですが、第一回展の「土佐派肖像粉本―将軍・茶匠・町衆」、第二回展の柿本人麿を中心にした「歌神・歌聖」、第三回展「御所の障壁画」に続きまして、今回は、平等院鳳凰堂板絵の模本と寒山拾得図などの道釈画模本、弁財天像や聖賢像など仏教や儒教に関わる模本によって構成しました。平等院鳳凰堂の模本は、江戸後期に原寸大に模写されたもので、それも含めて、今回もほとんどが初めて公開されるものばかりです。ここに展観されている粉本類は、芸術資料館が所蔵する膨大な土佐派絵画資料のほんの一部ですが、芸術資料館では毎年の公開展示に平行して、それらを類別的に包括する土佐派絵画資料目録を、同じく芸術教育振興協会の協力を得て順次編集刊行してまいりました。それによりまして、久しく望まれてきた大和絵の画系である土佐派累代の絵画資料の研究整理が、僅かながらも前進をみていることを慶びとするものです。

本展の開催にあたり、関係各位の多大なるご協力に深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

平成５年10月

京都市立芸術大学芸術資料館
京都市立芸術大学芸術教育振興協会

弁財天像（資料番号17）

寒山像（資料番号57）

出品目録

番号	品名(作者)	備考	材質	制作年	法量(mm)
1	上品上生図	平等院鳳凰堂東面中央扉	紙本淡彩		2125×1490
2	上品上生図	平等院鳳凰堂東面中央扉	紙本淡彩		2185×1465
3	上品中生図	平等院鳳凰堂東面北側扉	紙本淡彩		2255×1010
4	上品中生図	平等院鳳凰堂東面北側扉	紙本淡彩		2200×910
5	上品下生図	平等院鳳凰堂東面南側扉	紙本淡彩		1840×940
6	上品下生図	平等院鳳凰堂東面南側扉	紙本淡彩		2209×907
7	中品上生図	平等院鳳凰堂北面扉	紙本淡彩		1835×1375
8	中品上生図	平等院鳳凰堂北面扉	紙本淡彩		2095×1283
9	下品上生図	平等院鳳凰堂南面扉	紙本淡彩		1840×1375
10	下品上生図	平等院鳳凰堂南面扉	紙本淡彩		1838×1370
11	日想観図	平等院鳳凰堂西面扉	紙本淡彩		1473×1090
12	日想観図	平等院鳳凰堂西面扉	紙本淡彩		1110×1035
13	中品中生図	平等院鳳凰堂北面側壁	紙本淡彩		1365×3270
14	八相成道図	平等院鳳凰堂仏後壁前画面	紙本淡彩		2975×3585
16	弁財天像		紙本淡彩	元禄7年(1694)	693×418
17	弁財天像		紙本淡彩		394×305
20	弁財天像		紙本墨画	元禄12年(1699)	885×373
23	弁財天像		紙本淡彩	元禄11年(1698)	834×330
27	弁財天十五童子図		紙本淡彩	元禄8年(1695)	427×285
34	拾得像（土佐光成）		紙本墨画	寛文12年(1672)	537×290
35	寒山像（土佐光成）		紙本墨画	寛文12年(1672)	572×361
36	拾得像（土佐光祐）		紙本墨画	貞享5年(1688)	694×216
37	寒山像（土佐光祐）		紙本墨画	貞享5年(1688)	698×216
38	寒山像		紙本墨画		512×363
39	拾得像		紙本墨画		512×340
40	寒山像		紙本墨画淡彩		1136×776
41	拾得像		紙本墨画淡彩		1160×773
54	寒山像		紙本墨画	天和3年(1683)	345×242
57	寒山像		紙本墨画	元禄6年(1693)	518×339
73	拾得像（土佐光祐）		紙本墨画淡彩	元禄3年(1690)	438×288
81	拾得像		紙本墨画淡彩		577×416
88	寒山拾得図		紙本墨画		248×351
98	新田義貞旗図	鎮宅霊符神図	紙本淡彩		942×764
102	伏犠像		紙本墨画	寛文7年(1667)	540×397
110	孔子四配図		紙本墨画	元禄5年(1692)	1176×636
113 〜 115	菊慈童山水図	三幅対	紙本墨画淡彩		885×450 1000×450 895×445

参考出品

品名(作者)	備考	材質	制作年	法量(mm)
中品上生図(林司馬)	平等院鳳凰堂北面扉東側	紙本淡彩	昭和44年頃 (C.1969)	2675×1365

※番号は土佐派絵画資料目録(四)の資料番号を示す。
※表紙図版は鳳凰堂板絵中品中生図(資料番号13)部分。

土佐家絵画資料 平等院扉絵と道釈画

榊原　吉郎

奈良時代から始る浄土信仰は、さらに平安時代に至って大きく展開する。特に比叡山の天台宗では阿弥陀浄土への信仰が広まり、常行三昧堂が創られ、特殊な浄土美術を生み出してきた。この信仰は、都人の心を魅了し、山越阿弥陀図など様々な阿弥陀来迎図が創り出されたのである。このような流れの中で平等院が生まれ、奥州の地に中尊寺が出現した。

宇治の平等院はもと源融の別業であったが、藤原道長に譲られ，さらに藤原頼通に伝えられた。彼は寺院に改め、当時の人々から末法到来の年と信じられていた永承七年（1052）平等院と号し、翌年、佛師定朝の手になる阿弥陀如来坐像を安置した。これが今日、鳳凰堂と呼び親しんでいる平等院阿弥陀堂であり、東から西方極楽浄土を礼拝するように堂宇が配置される。堂内には本尊・阿弥陀如来を荘厳するための装飾がなされ、扉、壁面、柱、天井に至るまで絵画・彫刻・工芸（金工・螺鈿）など様々な技法をもって飾り立てられた。

現在でも、そこに描き出された絵画を見ることができるが、しかし創建以来九百余年の歳月はそれらの絵画を無残な姿に変えてしまっている。そこには、我が国の四季折々の自然風情に心を寄せた藤原時代人の求めた絵画世界（大和絵）が展開していた。修理や改造により、創建当初の絵画に補筆・補彩の手が加えられ、極く一部分に創建当初の姿が残されているに過ぎない。ほとんどの部分が修理銘の残る文暦２年（1235）に始る改造時の作画であり、また明応９年（1500）の修造勧進状が示す修理、さらに寛文10年（1670）の正面扉の新造に依る作画によるものである。

正面中央の扉絵（上品上生図）は平等院扉壁画の中で最も大きい画面を占めているが、破損が激しく江戸時代（寛文）に新造されたものであり、創建当初の図様をみることが出来ない。最も新しいにも拘らず、その画面は破損が進んでいる。また堂内左右の北南の壁面を飾る来迎図も正面左右の扉絵とは画風を異にしており、問題を残す。

本学所蔵の土佐派絵画資料の中にも、近世の大和絵の家元らしく、様々な粉本に混ざって、大和絵の原型と云えるこの平等院扉壁画の実物大模写を残している。ちなみに、平等院扉絵が『平等院大観』の実測図の寸法の全面に描かれていたと仮定し、本学の土佐家粉本がどのくらい写し取っているかを概算してみると、約47～８パーセントの画面を模写していることになる。無論、土佐家粉本の画面全体に図像が描き込まれている訳ではない。むしろ空白の部分が広がっており、写し取られた図柄の少ないことも事実である。

このことは、模写された時点ですでに50パーセント以上の部分が扉の上から消滅していたことを物語るのであり、更に模写した土佐の画人の眼にも見えなかった部分が多くあったことをを考える時、歳月の残酷さが示されているのに気付く。

道釈画の粉本も数多く本学に残されている。これらは道教・佛教に関する人物画であり、どちらかと云えば、礼拝対象ではなく観賞用の人物画と云える。土佐の画人が漢画系の水墨画に手を染めたとは考えにくいのであるが、残されたものを見る限り、彼等が様々なジャンルに好奇心を持っていたことを示しているのも事実である。

（京都市立芸術大学教授）

●ギャラリー講座

□10月15日㈮
「平等院阿弥陀如来像について」
田村隆照（京都市立芸術大学名誉教授）
●午後５時30分会場でおこないます。

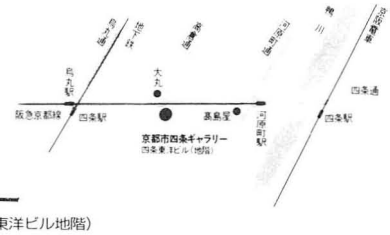
次回予告

京都市四条ギャラリー 48

平安建都1200年記念

展覧会のための展覧会
—有名・無名の向こう側—

1993年10月31日(日)～11月29日(月)
休所日＝11月10日、17日、24日の各水曜日



京都市四条ギャラリー
京都市下京区四条通高倉東入(四条東洋ビル地階)
TEL(075)223-1851　〒600

●開所時間：午前10時～午後７時　●休所日：水曜日，年末・年始

Ⅱ．教育普及関係

A．収蔵品貸出状況

本学外に貸し出された収蔵品は下記のとおりである。

平成５年度総計　19件　33点

作品名	貸出先	展覧会名	会期
村山槐多－信州風景	長野県信濃美術館	心に響く信州の風景画名作展	93. 7.24～ 8.29
林司馬－花鳥図 山茶花 花鳥図 法隆寺金堂壁画観音像 法隆寺金堂落書 平等院扉絵来迎図部分（３点） 花園院御影 金沢貞顕像 細川蓮丸像 親鸞上人 弘安本北野天神縁起 朝顔小禽図（盛安寺襖絵） 蓮花図（知恩院） 牝丹図（高桐院） 蘭花双鶏図（銭選） 狗児図（伝趙昌）			
笠岡市立竹喬美術館	国画創作協会の名手林司馬		93. 6.17～ 7.25
稲田尚之－若松邸建築資料（５面）	作者本人	稲田尚之退官記念会	93. 5. 1
林司馬－山茶花 花鳥図 要樹平－兵営附近 新見虚舟－三人の鮮人 岡本神草－口紅	京都国立近代美術館	国画創作協会回顧展	93. 9.28～12.12
栗本夏樹－儀式	西宮市大谷美術館	小清水漸・栗本夏樹展	94. 2. 5～ 3. 6
秋野不矩－雨後	静岡県立美術館・京都市美術館・毎日新聞社	秋野不矩展	93.10. 9 ～94. 4.24
徳岡神泉－晩秋	朝日新聞社	文化勲章受賞の京都画壇名作展	93.11. 4 ～94. 3.13
一遍上人絵伝 土佐派絵画資料－衣通姫像・玉津島明神像	斉宮歴史博物館	斉宮をめぐる文化－巫女の文化	93.10.10 ～11.23
土佐派絵画資料－三好義継像	八尾私立歴史民俗資料館	動乱の河内－武士・庶民の動き	93.10. 3～11.23
八木一夫－壁体	滋賀県陶芸の森	八木一夫が出会った子供たち－土・造形の原点－	93. 9. 4～10.31

山口華楊－樹	東武美術館・日本経済新聞社	山口華楊と晨鳥社の人びと	94. 1. 6～ 2. 6
浅井忠－琵琶湖風景	浜松市美術館・河口湖美術館	日本近代水彩画と水野以文－とき放つ光、込められる時間－	93. 9.24～12. 5
近藤悠三 葡萄染付壺 薊染付壺 柘榴釉裏紅壺 山染付赤絵壺 松染付壺 富士赤地金彩染付皿 山染付万葉字染付皿 ペルシャ古陶村染付皿 笹染付角皿 柘榴染付角鉢 梅染付面取壺	鳥取県立博物館	工芸美術の華～富本憲吉と新匠の作家たち	93.10. 9～11. 7
山口華楊－樹	朝日新聞社	文化勲章受章の京都画壇名作展	93.11. 4 ～94. 3.13
入江波光－北野の裏の梅 村上華岳－二月の頃 徳岡神泉－水汀	読売新聞社	古都を描く日本画展	94. 1.27～ 3.29
一遍上人絵伝模本	斉宮歴史博物館	古代の祈り－熊野信仰の世界－	93. 2.14～ 3.31
片輪車千鳥蒔絵酒温器 久和良形香合 波文鉢 櫛（木台波に籠字蒔絵櫛） 櫛（鼈甲台松原波千鳥蒔絵櫛） 白地香炉	神戸海洋博物館	生活の中に見る「波」の表情	94. 3.25～ 5.29
入江波光－北野の裏の梅 村上華岳－二月の頃 前田荻邨－風景 要樹平－兵営附近	福島県立美術館	日本画の風景	94. 9.10～10.16
田中親美－年中行事絵巻模本（２巻）	祇園祭山鉾連合会・京都新聞社	祇園祭大展－山鉾名宝を中心に－	94. 4.12～ 5.15

B．収蔵品学内使用状況

本学内に於いて館外使用した収蔵品は下記のとおりである。

総計　5件　9点

資料名		目的	貸出先	使用場所
醍醐寺五重塔心柱板絵模本	3幅	模写	日本画研究室	模写室
焔魔天像模本	1幅	〃	〃	〃
牡丹図模本	1幅	〃	〃	〃
手描羊皮紙楽譜	1面	講義	音楽学部	講義室
信貴山縁起絵巻	3巻	〃	美術学部	〃

C．収蔵品補修状況

今年度補修修理を行った収蔵品は下記のとおりである。

総計　9件　212点

名称	点数	類別	補修内容
山沢義輔　「磁器図案」	1面	図案卒業作品	扁額装
川瀬　修　「衝立図案」	1面	図案卒業作品	扁額装
木村寛次　「墨染」	1面	日本画卒業作品	改装（額）
阿部由雄　「虎」	1面	日本画卒業作品	改装（額）
マイケル・ブレンナンド・ウッド「ナウ・ヴォイジャー」	1面	参考品	額装
伊藤柏台　「鳳仙花図画稿」	1面	参考品	扁額装
醍醐寺蔵調馬図模本	5幅	参考品	改装（軸）
田中訥言六玉川図模本	1巻	参考品	改装（巻子）
土佐派絵画資料	200枚	参考品	裏打

D．収蔵品撮影掲載状況

本館収蔵品撮影掲載許可は下記のとおりである。

総計　20件　42点

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行月
土佐派絵画資料のうち 土佐光清筆「四季花鳥図」	新潮社	「日本名建築写真選集」第18巻	1993. 6
ﾆｭｰｷﾞﾆｱ美術資料のうち 「肉づけした頭蓋骨」	ﾃｨﾋﾞｰｴｽ・ﾌﾞﾘﾀﾆｶ	ブリタニカ国際大百科事典	1993. 6
土佐派絵画資料のうち 「今井宗久画像」	FUKUOKA STYLE	「FUKUOKA STYLE」VOL. 7	1993. 6
田村宗立旧蔵粉本のうち 「牛頭天王」No. 1. 2. 6. 「諸権現」 No. 1. 8. 9. 「諸神」 No. 2. 5. 9. 10. 14. 15. 29. 35 「稲荷明神」No. 8. 21.	宝島社	別冊宝島EX「神道－その正体を知る」	1993. 8
村上華岳「二月の頃」・岡本神草「口紅」 山口華楊「樹」・宇田荻邨「野々宮」 入江波光「北野の裏の梅」	京都新聞社 京都新聞連載企画「描かれた京都－近代名画100 選」		1993. 5以降漸次
土田麦僊「湯女小下絵」	佐渡博物館	「図説・佐渡－自然と文化の博物誌」	1993. 9
土田麦僊「湯女小下絵」	NHK ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙ	ﾋﾞﾃﾞｵ「土田麦僊－画稿に秘めた情熱」	1993. 9
「朱印船末吉船図」	講談社	「ｸﾛﾆｯｸ 世界史」（全一巻）	1994. 1
資料「国画創作協会宣言書」 「解散声明文」他写真	NHK 京都放送局	ﾋﾞﾃﾞｵ「日曜美術館－国画創作協会」	1993. 10
土佐派絵画資料のうち 「今井宗久画像」	青黄社	「利久の美学　黒は古きこころ」	1993. 11
林司馬「花鳥図」 岡本神草「口紅」	便利堂	「国画創作協会回顧展」絵葉書	1993. 10
田村宗立旧蔵粉本のうち 「牛頭天王図」	学習研究社	Books Esoterica　第８号「修験道の本」	1993. 11
村上華岳「二月の頃」 入江波光「北野の裏の梅」	山崎正史	論文「京の都市景観」（ﾌﾟﾛｾｽ・ｱｰｷﾃｸﾁｬｰ誌）	1994. 6
徳岡神泉「晩秋」	ｶﾂﾉｱｰﾄﾌﾟﾛﾀﾞｸﾂ	「京都日本画の粋」展絵葉書	1994. 5
土佐派絵画資料のうち 「土佐光信画像」	講談社	「ｸﾛﾆｯｸ 戦国時代」	1994. 3
村上華岳「裸婦画稿」	新集社	巨匠の日本画第７巻「村上華岳」	1994. 6
土佐派絵画資料のうち 「柿本人麿図」	日本美術工芸社	「日本美術工芸」３月号	1993. 3
岡本神草「口紅」	新集社	「日本近代絵画史」	1994. 4
今尾景三「兄弟」	今尾景三	今尾景三画集	1994. 7
辻　晋堂「楳嶺胸像」	幸野豊一	「楳嶺百回忌・西湖五十回忌記念画集」	1994. 10

注：掲載を要しない研究のため等の撮影は挙げていない。

E．博物館学実習受入状況

本学博物館学課程の博物館学実習について本施設では下記の者を受入れた。

中村　祥子	井之川陽子	今井　祐樹	柴田　聖加	中井佐永子
早川　敦子	森脇　有子	小谷　　康	岡本　珠美	小西　由起
佐々木百合	國賀　史子	森崎　朋子	綿田　有美	韓　　麗英
籾山　由起				

以上16名

F．特別閲覧許可状況

本館収蔵品の特別閲覧状況は下記の通り。

学内関係者	3件
学外特志者	6件
総計	9件

G．告　知

＜収蔵品名称の変更について＞

収蔵品＝新見孝作「三人の鮮人」（昭和3年、京都市立絵画専門学校卒業作品）については、作者本人からの申し出により、平成5年12月13日付けで、「市の立つ日」と名称を改めた。以後『日本画聚英』『国画創作協会回顧展図録』等に掲載の同作品名は使用せず、貸出・掲載等の依頼については新しい名称を用いる。